

軍極秘

機密後部第三五六〇號ノ四

昭和十八年十月六日

特殊漁船第十五號毒代丸戦闘詳報

十月三日付送付

海軍省 須賀 鎮守 府

1010

海軍省 18.10.21 投文

2010

目次

七
枚

一、九月一日空襲迄、麻島島附近ノ敵情

二、任務

三、経過

四、戦果及被害

五、功績

六、参考

(1) 所見

(2) 船ノ要目

(目次終)

特殊漁船第十五號專代丸戰闘詳報

一 九月一日空襲迄ノ南鳥島附近ノ敵情

八月二十七日一五一五南鳥島警備隊見張員敵潜水艦搭載機ノ飛行中
ヲ發見シ同隊ハ直ニ飛行機ヲ以テ索敵偵察セシモ敵潜水艦ヲ發見セ
ズ之ニ依リ敵潜水艦ガ南鳥島ヲ偵察監視中ナルヲ察知セルモ右ノ
外空襲迄特異ノ點ヲ認メズ

二 任務

軍務一機密第一〇二號ニ依ル特殊漁船第三十八次出動船トシテ八月
二十五日横須賀出港同月三十日指定哨漁區（D區）着爾後漁業ヲ兼
ネ海上監視通信ニ從事中

三 経過

(1) 経過摘要

九月一日〇四三五（天候晴風波平穩、附近配備ノ僚船ヨリノ報告）
北緯二五度〇分、東經一五四度〇分ノ地點ニ於テ敵飛行機ノ機銃

掃射ヲ受ケル旨報告爾後連絡ヲ絶チ〇五一五各哨漁區配備ノ特殊
 漁船全部ニ對シ「警戒ヲ嚴ニセヨ」ノ本府命令ヲ燒津無線局經由
 ニテ發信セシニ同船ハ之ニ應答ナカリシニ依リ〇七〇〇附近配備
 ノ僚船第五號萬榮丸ヲシテ同船ニ近接其ノ狀況調査ヲ命ジタルニ
 何等ノ手掛ヲ得ズ更ニ〇哨漁區配備中ノ僚船昭榮丸ヲシテ該地點
 附近ノ搜索ヲ命ズ 昭榮丸ハ直ニ現場ニ急行極力搜索中四日〇五
 五〇北緯二五度一〇分東經一五四度〇分ノ地點ニ於テ敵米國飛行
 機搭乗員三名救命浮標ニ乘リ漂流中ヲ發見直ニ之ヲ收容捕虜トナ
 シ爾後本府ノ命ニ依リ南島島警備隊ニ俘虜ヲ引渡シタル後再ビ搜
 索ヲ續行セルモ同様手掛ナク爾後飛行機及僚船第十二號事代丸ヲ
 シテ風向潮流等ヲ考慮シ別紙第一搜索經過圖ノ如ク搜索セシメシ
 ニ十月一日ニ至ルモ遂ニ發見スルニ至ラズ
 當時B哨漁區配備中ノ僚船八幡丸及D哨漁區配備中ノ僚船第五萬
 榮丸ガ敵機ノ機銃掃射及爆撃(船外ニ落下)ヲ受ケタル狀況報告

ニ徴シ同船ハ敵機ノ機銃掃射ニ對シ之ニ反撃中不幸敵機ノ攻撃ニ依リ船体大破緊急通信ノ機會ナク沈没全員戦死セルモノト認ム

(四) 合戦圖

不 明

(三) 發信文

別紙第二ノ通

(二) 戦果及被害

(イ) 戦 果

不 明

(ロ) 被 害

(一) 船体兵器機關

沈没ニ依リ亡失

(二) 戦死傷者

別紙第三ノ通全員戦死

武功 績

特記事項ナシ

六 考

(1) 所 見

ナ シ

(2) 船ノ要目

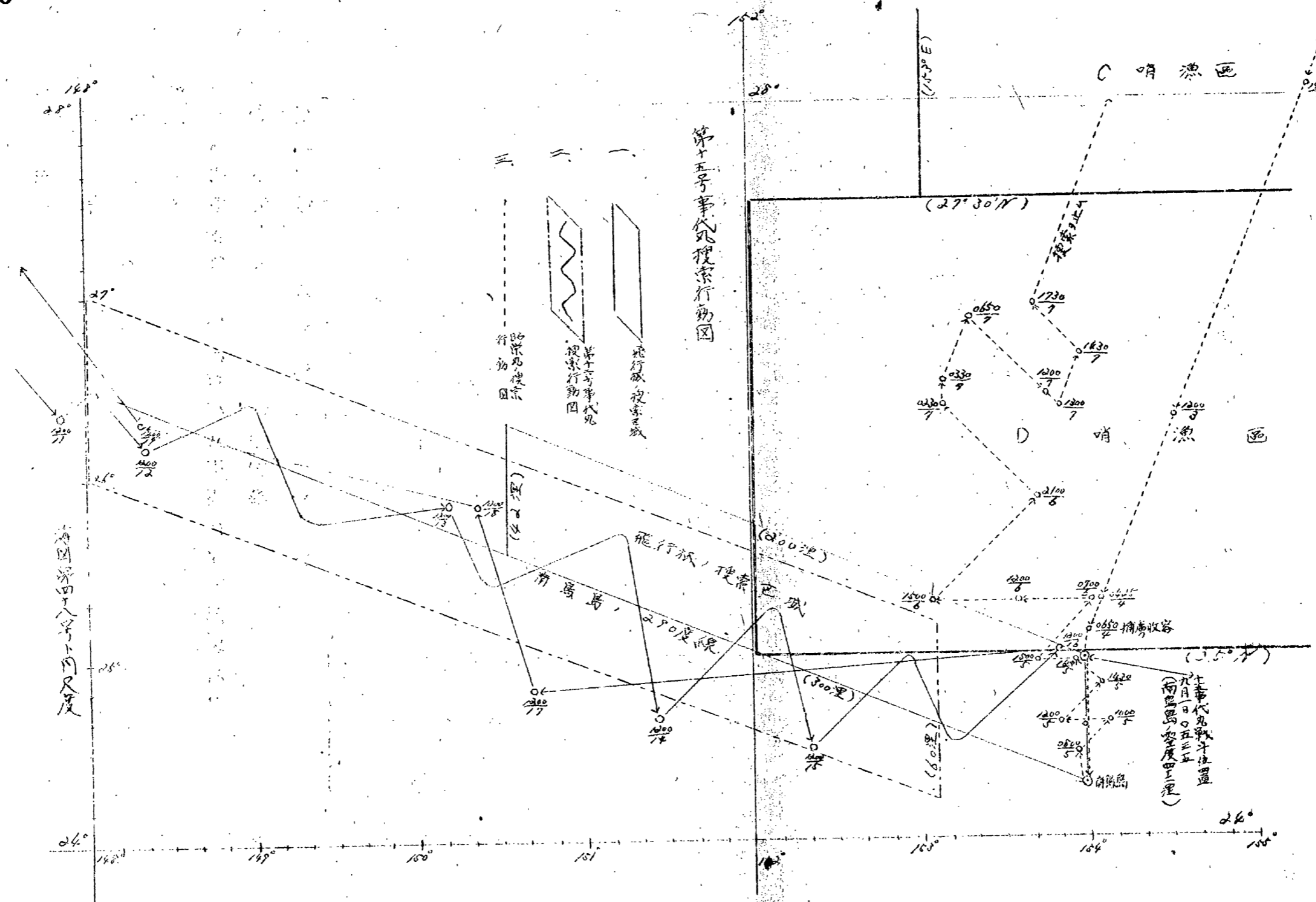
農林省徴備船（横須賀鎮守府指揮下特殊漁船）

木製一五八噸 速力十節

搭載兵器 麻式機銃 一挺

三八式小銃 三挺

(終)



本事件の機体位置
 九月五日五三三
 (南島島上空度四上度)

九月八日 一八〇六 横須賀鎮守府 司令長官	九月八日 二〇五九 南鳥島部隊 指揮官	本府指揮下ノ特殊漁船第十五事代丸(一五八噸)ハ九月一日〇四三〇頃南鳥島ノ零度四十二湊ニ於テ敵飛行機ノ攻撃ヲ受ケルノ報告ヲナセル儘連絡ヲ絶チ爾後偵察船ヲシテ搜索ヲシメツツアルモ消息不明ナリ、飛行機ヲ以テ南鳥島及該船遺難位置ヲ起點トスル二百九十度併行線内二百湊ノ海面ヲ搜索スベシ	信電令
九月八日 一九三〇 横須賀鎮守府	九月八日 一九五五 第十二事代丸	其ノ船ハ南鳥島ノ二百九十度三百五十湊ノ地點ニ至ラバ南鳥島ニ向ヒ同線上三百湊ヲ左右三十湊間ヲ蛇航搜索セヨ	無電
九月十一日 一一〇五 第十二事代丸	九月十一日 一一二二 横須賀鎮守府	命ニ依ル位置着嚴重搜索中	無電
九月十一日 一八〇〇 第十二事代丸	九月十一日 一八四一 横須賀鎮守府	第十五事代丸終日搜索スルモ手掛ナシ	無電
九月十三日 一八二五 第十二事代丸	九月十三日 一八五四 横須賀鎮守府	終日搜索スルモ何等發見セズ	無電
九月十四日 一八三五 第十二事代丸	九月十四日 一八三九 横須賀鎮守府	其ノ後何等手掛ナシ	無電

九月十五日一七二五 横須賀鎮守府	九月十五日 第十二事代丸	現位置ヨリ反轉シ搜索シツツ歸途ニ就ケ	無電
九月十五日一八三〇 第十二事代丸	九月十五日一九〇九 横須賀鎮守府	第十五事代丸手掛ナシ	無電
九月十六日一八三〇 第十二事代丸	九月十六日一九三五 横須賀鎮守府	命ニ依リ搜索シツツ歸途ニ就ケ終日手掛ナシ	無電
九月十七日一八三〇 第十二事代丸	九月十七日一八五五 横須賀鎮守府	第十五事代丸終日手掛ナシ	無電
九月十八日一八三〇 第十二事代丸	九月十八日一八三九 横須賀鎮守府	終日手掛ナシ	無電
九月十九日一八三〇 第十二事代丸	九月十九日一八四一 横須賀鎮守府	第十五事代丸今日モ終日手掛ナシ	無電

別紙第三

戦死者名簿

通信士	同	同	同	同	同	同	甲板員	甲板長	運轉士	船長
山本徳秋	高山權逢	高山權成	高村完允	岡林米壽	松岡仁守	吉川孝之助	福島市平	小池辰治郎	浦野政男	大八木七之助
同	同	操機手	機關士	機關長	同	同	同	同	同	甲板員
大滝智	佐々木吉三郎	木滝功	菊地重太郎	大滝喜一郎	金村基仁	濟夫洋成	小山善左衛門	川上吉太郎	大滝剛	石綿敏夫

軍務一機密第一〇二號

昭和十七年二月十二日

海軍省 軍務局長

大本營海軍參謀部第一部長

第五	第四	第三	第二	第一
艦隊	艦隊	艦隊	艦隊	艦隊
除隊	除隊	除隊	除隊	除隊
參謀	參謀	參謀	參謀	參謀
長	長	長	長	長
殿	殿	殿	殿	殿

短波無線電信機ヲ有スル鯨鮪漁船ヲ
漁務ヲ兼ネ監視任務ニ充當ノ件申進

首題ノ件別紙ニ依リ實施ノコトニ定メラレタルニ付關係事項ハ左記ニ
基キ處理相成度

記

一、横須賀鎮守府ハ本任務ニ充當スベキ漁船ニ對スル全般的指導統制ニ

任ジ出動漁船ニ對シ所要ノ指示ヲ與フルト共ニ關係事項ヲ第四、第五艦隊ニ通報ス

二、第四、第五艦隊ハ漁船ノ監視任務ニ關シ必要アル事項ニ就キ續須賀鎮守府ニ協議ノ上極力之ガ利用ヲ圖ル

(別紙添)

(終)

別紙

本州東方太平洋上ニ配備スベキ特設監視艇ニ關シ第五艦隊ハ最小限一
 二〇隻ヲ必要トスル旨要求シアル處既ニ漁船徵備餘力ナキ現狀ニ鑑ミ
 此ノ方面ニ九〇隻ヲ配當スルコトニ定メラレタリ

右特設監視艇ノ補助トシテ太平洋方面ニ出漁スル鯨船中短波無線電
 信機ヲ有スルモノ二十九隻ハ概ネ東經一六〇度線附近ニ出漁スルニ對
 シ海軍ヨリ燃料ヲ支給シテ其ノ行動ヲ規正シ洋上監視力ヲ增強スルト
 共ニ兼テ水産食糧増産ニ寄與スルヲ適當ト認メ左ニ依リ實施ス

一、交付スベキ燃料

重油年額四、〇〇〇屯以内

差當リ第一回四半期分トシテ一、〇〇〇屯以内ヲ交付シ其ノ成果ニ
 應ジ爾後ノ交付額等ヲ決定スルコトトス

(説明)

使用船二十九隻ノ一年間所要燃料約五、〇〇〇屯中配給燃料一

二、配備地點

〇〇〇屯ヲ控除セル額ヲ海軍ヨリ交付スルコトトス

北緯三五度東經一六〇度ノ點ヨリ南鳥島ニ至ル間（約六〇〇哩長）
ヲ四等分シ北方ヨリA B C D哨漁區トシ各區ニ概ネ三隻宛在ラシム
ル如クス

三、出動基地

石ノ巻、三崎、清水

四、行動要領

使用船ヲ三組ニ分チ十日間隔ヲ以テ出動セシメ指定配備點ニ至リ約
一月後（概ネ漁獲物滿船スルモノト豫想ス）基地ニ歸着スルモノト
シ此ノ間適宜正午位置ヲ關係海軍部隊ニ電報セシム

敵艦敵機ヲ發見セバ船舶防空監視心得ニ依リ發電セシム

五、監視員

船長及所要船員ヲ以テ編成シ之等人員ニ對シ操ノ講習ヲ實施スルト

共ニ艦型圖、飛行機略圖ヲ交付ス

右講習ノ成果ニ依リテハ各船ニ下士官兵一名宛乗船セシムルコトアルベシ

監視員一名ハ漁撈中ト雖モ當時見張ニ専念セシム

六漁獲物ノ處理

農林省ニ一任スルモ海軍ノ必要量ハ優先取得ス（増産豫想高額約三〇〇万貫）

（終）